

平成29年度 第1回鳴門市総合教育会議 議事録

平成29年7月13日、13時30分に鳴門市本庁舎3階会議室で開会。

同日14時45分に閉会した。

・出席者

(会議構成者)

泉市長、安田教育長、寺田委員、加藤委員、小松委員、丹羽委員

(会議構成者以外)

市長部局

谷副市長、三木政策監、来島事業推進監

津田戦略企画課主幹兼副課長、伊勢戦略企画課主事

教育委員会事務局

大林教育次長、竹下学校教育課長、笠原生涯学習人権課長

阿部学校教育課主幹、池脇教育総務課副課長、川上学校教育課副課長

・傍聴者

なし

・会議は、市長が議事を進行した。

・議事の内容は次のとおりである。

(1) 高校入試制度について

(2) 学期制のあり方について

・津田戦略企画課主幹兼副課長は、13時30分に平成29年度 第1回鳴門市総合教育会議の開会を宣言した。

・津田戦略企画課主幹兼副課長は、鳴門市総合教育会議設置要綱第5条の規定に基づき、議事の進行を市長に求めた。

・市長は、議事(1) 高校入試制度について説明を求めた。

竹下学校教育課長は、平成28年度徳島県公立高等学校入学者選抜試験結果への対応経緯等について説明をした。

- ・市長は、高校入試制度について教育長及び各委員に意見を求めた。
- ・加藤委員は、今回要望により、定員が増えたことは良かったが、今後も学力向上の取り組みを進めていくことと学区制の見直しを求めていくことが必要であると述べた。
- ・寺田委員は、城ノ内高校が6年制の中等教育学校に移行することについて、鳴門市の子ども達が中学校の段階からどの程度城ノ内に行くのかどうか等分らない部分が多いという意見を述べた。
- ・丹羽委員は、鳴門の高校に鳴門の中学校から進学する子ども達が少なくなっている現状があり、早い段階からの進学指導や奨学金制度の活用など学力向上への意欲づけになるような取り組みを進めていくことも大事であると述べた。
- ・小松委員は、学区制について、徳島北高校の枠を広げてもらうなど小さな要望からでもいいので継続的に進めていくべきであると述べた。
- ・教育長は、鳴門の子ども達の選択肢が少なすぎるのが問題であり、これにより学力向上に対するインセンティブの低下の要因になっていると述べた。
- ・市長は、学区制については、他の市町村と連携しながら進めていくことが重要であると述べた。また、今後この総合教育会議で議論した内容を踏まえて教育委員会・首長それぞれの立場から要望をしていく旨を説明し、教育長・各委員から了承を得た。

・市長は、議事（2）学期制のあり方について説明を求めた。

竹下学校教育課長は、これまでの2学期制の経過と今後の学期制のあり方の検討方法について説明をした。

- ・市長は、学期制のあり方について、教育長・各委員に意見を求めた。
- ・寺田委員は、2学期制になってテストの回数が減っている等の問題が言われているが、3学期制と比べても学力は変わらないのではないかとの意見を述べた。
- ・小松委員は、まずはアンケートを実施して、教師等の現場の意見を聞くことが重要であり、また3学期制に戻す場合は、2学期制で確保した授業数をどのように維持するかという課題もあると述べた。
- ・丹羽委員は、もし3学期制に戻すとしても、現在の2学期制の良さを残しつつ移行すべきであり、また教師の負担が大きすぎると子ども達と向き合う時間が少なくなる点も考慮する必要があると述べた。
- ・市長は、教師の負担については部活の負担が大きく、これから考えていかなければならな

い課題であると述べた。

- 加藤委員は、周りの保護者からは、2学期制になって運動会の時期が9月になったのが暑くて困るという意見が多いと説明し、また授業数を確保するためには土曜日授業を考えていく必要があると述べた。
- 教育長は、始業式等を減らして授業時数を確保することについて、儀式的行事についても教育効果は高く、その重要な意義を伝えていく必要があると述べた。
- 市長は、学期制については、まずは早期にアンケート実施して、根拠のあるデータを踏まえてもう一度議論をして進めていくと述べた。
- 津田戦略企画課主幹兼副課長は、14時45分に閉会を宣言した。